

令和2年度第2回甲賀市商工業振興計画審議会 会議録

開催日時：令和3年2月18日（木） 15：30～17：00

開催場所：まちづくり活動センター「まる一む」多目的室2

出席委員：＜委員＞別紙委員名簿に記載

事務局：＜市＞松下泰也商工労政課長、近藤基博商工労政課係長
立岡直樹商工労政課主査
司会：松下課長

会議次第：1. 開会

2. 挨拶

3. 協議事項

(1) 第1回甲賀市商工業振興計画審議会に関する報告案件について

資料1、資料2

(2) 「甲賀市商工業振興計画」の見直し（案）について・・・資料3

4. その他

5. 閉会

1. 開会

事務局

- ・ 本日は寒い中、また、お足元が悪い中、お集まりいただきましてありがとうございます。それでは、定刻となりましたので第2回商工業振興計画審議会を開催させていただきます。

それでは、まず会議に先立ちまして市民憲章の唱和をお願いします。ご支障のない範囲でご起立ください。市民憲章につきましては、次第の裏面にあります。私が、前文を読み上げますので、引き続きご唱和いただきますよう、よろしくお願いいたします。

甲賀市市民憲章唱和

- ・ どうもありがとうございました。ご着席ください。それでは、改めまして本審議会の開催にあたり、委員長より一言ご挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

2. 挨拶

肥塚委員長

- ・ まだまだ新型コロナの影響が続いている中で、ようやく色々と新しい動きも進んでおります。私は、大学におりまして、大学はこれから卒業式と入学式と人が集まる機会が増えます。また、私は、医療や介護という分野にも関わっておりますので、そこの方々と話していると非常に厳しい事態が続いています。医療や介護の関係者の方々は、日々、最前線で戦っておられ、新型コロナの感染拡大から1年となっており、疲弊しておられます。

さて、今日のところは、甲賀市商工業振興計画の検討をしていく、前段で甲賀市の総合計画の基本計画も説明いただくということになっております。やはり、全体の状況を踏まえた形で振興計画をつくっていくことが大変重要なことだと思っております。ここでは、私たちも総合計画を踏まえた形で、次の商工業振興計画を考えていければいいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

事務局

- ・ ありがとうございました。それでは、次第に基づきまして審議会の議事に入らせていただきます。本審議会の規則では委員長が議長になると定めておりますので、これからの議事につきましては、委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

委員長

- ・ それでは、議事に入る前に、会議の成立について事務局より説明をお願いいたします。

事務局

- ・ 本日の会議でございますが、オンラインでのご参加も含めまして本日現在で、委員総数13名のうち11名の議員のご出席をいただいております、過半数の委員の皆様がご出席いただいておりますことから、会議開催の要件を満たしておりますことをご報告させていただきます。

3. 協議事項

委員長

- ・ では、協議事項に入らせていただきます。最初に1番目の第1回商工業振興計画資料1と資料2の報告案件について事務局から説明をお願いします。

事務局

- ・ 事務局より資料1、資料2を説明

委員長

- ・ 資料1と資料2につきまして、皆様からのご質問をいただきたいと思います。その前に、資料2は1月1日時点と書いてあるので現状はどの段階の資料であるのか説明願います。

事務局

- ・ 1月1日と書かれておりますのは、パブリックコメントをする際の1月1日時点の資料となります。現在は、パブリックコメントをしている段階です。本資料は公にできる最新の資料となっております。

委員長

- ・ これについての内容理解も含めまして、ご意見・ご質問いただければと思います。いかかでしょうか。

委員

- ・ (質問なし)

委員長

- ・ それでは、協議事項の2番目、甲賀市商工業振興計画の見直し案についてご説明をお願いします。

事務局

- ・ 資料3について説明

委員長

- ・ それでは、今の資料につきまして、ご意見をいただきたいと思います。

委員

- ・ 7ページ、薬業のところを見てください。医薬品の地域別生産金額の推移を載せていただいております。平成30年（2018年）までしか載っていないのですが、厚生労働省が集計しております、昨年12月に令和元年（2019年）の生産金額の発表がございました。

これがなんと驚くべき数字が出ております。総額のA+Bが、2,044億円だったのが、滋賀県は5,449億円と2.5倍ほど増えました。上からいきますと地場産業606億円が令和元年は656億円。甲賀地域が532億円だったのが600億円。逆に日野地域、44億が37億円に減っています。その他地域が19億から10億に減っております。そして、誘致その他が、1,437億円が4,793億と非常に大きく伸びており、合計5,449億円。この詳しい数字は薬業協会の事務局のほうから連絡させていただきます。

今まで全国11位だったのが全国5位まで伸びました。当然、関西ではトップです。兵庫県、大阪をおさえてトップになりました。実はこれ、算定方法が変わりまして、今まで生産元でカウントしており、東京都・大阪が多かったのですが、令和元年から工場がある場所での生産金額にカウントするという方法に変わりました。

今まで東京のランクがかなり高かったのが、30位台まで落ちました。より現実的な数字になったということです。甲賀地域だけをピックアップしてみますと地場では600億ということで、656億のうち600億が甲賀地域です。誘致企業を含めると2,234億円となりまして滋賀県全体でも40%が甲賀市で生産しているという数字になりました。これは我々にとって朗報です。実はこれに医薬部外品と化粧品と医療機器を加えると合計生産額が8,000億ぐらいになります。もう1兆円産業に近づいて、全国2位となりました。おそろべき数字となりました。このあたりも滋賀県の平均寿命が長いというのも、ある程度関係あるのかなと思っております。振興計画の地場産業の目標金額を書いておりますが、楽にクリアしております。ご安心いただければと思います。

委員長

- ・ すごい朗報ですが、どのように扱うのか検討していただかないといけないですね。まずは情報提供とお話ありがとうございます。

事務局

- ・ ありがとうございます。数字が追いきれてなかったのが大変申し訳ないです。本当に朗報だと思いますので我々も肝に銘じて頑張っていけないといけないと思います。ありがとうございます。

委員長

- ・ では、ご意見をお願いします。

委員

- ・ 信楽焼につきましては、前回は申しました通り去年のデータがまだ揃っていない。良いことはないですが、どのくらい落ちたかは、そのデータを見てから判断したいと思っています。粘土の売れ数は一年通して、コロナ禍の中において、1割減ということで大きくは落ちておりません。これが製品にどういう風に影響してくるか、また信楽焼の土は製品だけでなく、陶芸教室とかそういうもので全国に出ています。土の使用量だけでは、判断できないという状況でございます。ただ、これからの甲賀の産業につきまして、地場産業の目標として2%の目標を達成していくと記載があります。いままで信楽焼は製品を出していました。ところが、最近は伝統工芸で手作りの物で量産できない物の人気があります。スタイルが変わってきました。その中で伝統産業の中で数字をキープすることが、かなり頑張っていることになりました。数値目標を達成していくのは他の産業とはまた意味合いが違うので、とにかく信楽焼がずっと残っていった数字も大切ですが、時代にあった商品をつくっていくのが大事だと思っています。

また、今年、六古窯サミットが信楽でございます。去年はスカーレットもありました。観光としてはコロナ禍の中でも土日はお客さんがたくさん来ていただいております。ただ、観光バスが動かない。大きな買い物をされていない。数字は落ちているとは思いますが、とにかく、アフターコロナ、どのように信楽焼の数値を立てていくか。また検討したいと思っています。以上です。

委員長

- ・ 今いただきました伝統工芸の中でどのように信楽焼を見ていくのか、ということも含めまして、書きぶりもどうしていくのか考えていく必要があると思います。続きまして、お願いします。

委員

- ・ まず、総論でいきます。医薬品はアップで良いと思ったのですが、パブリックコメントをやっていくという中で、市民の皆様に見ていただくことになると思います。数字が大きいものばかりで、意見を求めても市民の方には自分事には思えない

のではないかと気になっています。これはできるか、分からないのですが、自分の収入はいくらになるという指標みたいなのを出せると自分事に思えてくると思います。日本の平均給与400万円台ぐらいです。一人あたりの給与が甲賀市民はこれぐらいである。これから頑張ればこれくらい上がる。世帯あたりにするとか。今、市の生産額が6,000億ぐらいです。それは業種によって違うとは思いますが、そのうち、人件費は2割になるとすれば1,200億ぐらいです。それを人口で割ったら1人当たり100万ぐらいです。赤ちゃんもおじいちゃん、おばあちゃんまで。それが頑張ることでこれくらい上がって、甲賀市で住むと働く場所もあるし、こんな生活できるぞという指標が1個でも出せるのであったら、市民の方もより身近に感じるのではないかと思います。

教育ファーム。前回お話をさせていただいて文言で入れていただきました。本当にありがとうございます。教育ファームは、どんな形でいれていけばいいかなという話をしたいのですが、解説文にもありましたが、なんとなく農業体験させれば教育ファームという考え方が多いです。農家側もギブアンドテイクではないですが、農作業をさせるだけでなく、来てもらう子どもたちにもしっかりとサービスをしていく必要があると思います。ちょっと前に運営している農業公園でやったのですが、農業体験でたまねぎの植付けをやってもらいました。そのときに、ちょうど4年生だったのですが、面積の勉強とか、地理で世界地図とか、そういった授業と組み合わせるプログラムにしました。たまねぎは原産地どこだろうとか、たまねぎの植える畑を測っていくつ植えられるのかとか。そこで実際測って、算数の勉強です。地理だと世界地図の勉強です。普段、学校でやっているプログラムにすることによって、普段、先生が教えている勉強が社会に出て役に立つ。大切な物だということが子どもたちに理解してもらえる。しっかりと農業側が考えた教育ファームになっていければと思っています。

あと、もう一つの問題は、全国の農家さんいろいろと受け入れをしているのですが、基本的にボランティアベースが非常に多い。地域のためだとか。やっぱり対価をもらってやるのが大切だと思っています。農産物を作って売るとというのが仕事ですが、それだけじゃない、収入の手段を農家が持つことが大切です。体験サービスを提供することで収入を得るというようなことにも繋がればいいと思っています。あと、もうひとつは教育ファームとは別に農業を使って、福祉へ繋げる。農福連携とかあります。例えば、デイサービス。今日は室内ではなく外で、デイサービスやろうということが出来ます。いろいろと野菜の世話をやって、国の制度になると思うのですがけれども介護保険料が支払われるとか、そういう制度ができれば面白いと思っています。実際、オランダでケアファームという制度があると聞いたことがあります。介護保険に近いような保険料が農家に支払われる。そういった取り組みが進んでいる。是非、そういった制度が入れられたら良いと思います。

デザインという観点も大切だと思っています。観光にも関わるとは思いますけれども甲賀市らしさを伝えるためにもデザインがすごく大切だと思っています。

私の出身は甲賀市ではなく違うところで、15年くらい前に甲賀市に移ったのですが、やっぱり最初一番驚いたのが皆様のお家にタヌキがおいてある。なかなかこれはすごいことです。甲賀市内で自分が一番好きな道は佐山小学校の前の道。飛び出し坊やがたくさんあるのですが、みんな忍者の絵で飛び出し坊やを作って、すごく愛を感じます。思わずスピードダウンしてしまう。何にするか。キャラクターなのか字なのか。

信楽焼。新しく来ていただいた会社さんの看板は信楽焼にしてプレゼントするとか。各家庭の表札も全部、信楽焼にして配るとか。なんかそんな感じで甲賀市って焼物の街とか、そういったイメージがつけられるといいのかなと思っています。

アフターコロナの話になると思いますが、仕事柄、飛行機を使うことが多くて空港を利用するのですが、実は甲賀市は個人的にはいいところだと思っています。1時間半県内で5つ空港があります。セントレアと名古屋空港、関空、伊丹、神戸空港が割と近いのでなかなか国際便が飛ぶ空港がこれだけ近いのは、そう日本中探してもないと思います。出かけていくだけでなく来ていただくことにもすごくいい立地だと思いますので、とても来やすい場所ですよということをPRしていくと観光振興につながっていくと思いました。

委員長

- ・ 前回、提案いただきました教育ファームについて具体的な中身について言っていただきました。どこと話をしていたらいいのかも含めまして話をしていただきたいと思います。滋賀県内にて農福連携をされているところもあると聞いております。またデザインの観点も重要なことであると地域資源を活かした産業振興の観点で観光も含めて大切な観点かなと思って聞かせていただきました。

委員

- ・ 飲食、宿泊業界でございますのでコロナのど真ん中で、去年の売り上げもとんでもない落ち込みでございます。資料3の2020年度の落ち込みですが、体感的にもっと落ちているのではないかと感じております。それと地元のお客さんが地元の業者を使っていたら、例えば法事とか、そういった中で近所の方が座敷を使っていたら、お金を落としていただくプラス供養物として去年、お茶とかもとんでもない落ち込みです。特に、甲賀はお茶の産地ですので。現実には、もっと落ち込んでいるのではないかと感じております。あと、ちょっとわからないのが参考様式3の2の人材不足感。ハローワークの方もおられますが、これはどうやって数値化されているのか、分かりにくいと思いました。以上です。

事務局

- ・ 人材不足感についてのご質問ですが、実はハローワークさんの数字ではなくて、甲賀市で独自の数字です。年1回、市内の企業へ訪問させていただき、その際に、

業況、人材不足感を聞き取りさせていただいて、その数字をあげさせていただいています。

委員長

- ・ 飲食関係の厳しさはどのように考えておられるのですか。

事務局

- ・ 委員にもお世話になったのですが、市長が飲食事業者と意見交換をしたいということで話がありました。今月の3日に市役所に来ていただきました。お店を出されているお店もありますが、仕出しをされているお店とか、大きな宴会場をお持ちのお店の方にも、しっかりと現状をお聞きさせていただきました。宿泊についてもGoto関係で上がって、その後下がったと聞いております。そういう状況もお伺いしております。新年度予算を議会で審議していただいておりますが、なんとか市としても応援できることはないかと市長からも指示を受けている状況です。どういふ手立てがいいのか悩みどころですが、状況としてはすごく悪いということは市としても認識しているところです。

委員長

- ・ よろしいでしょうか。

委員

- ・ 2019年に策定した計画の見直しということで、前回も出ていたと思いますが、非常に人口減少が著しいわけでございます。私事ですが、私の子どもも一人が大学を卒業して就職しております。一人が春から就職をします。50過ぎですが、私たちの世代の子ども達が大学を卒業する時ですが、ほとんど甲賀市内で就職するという事を聞かないです。人材育成と上がっておりますが、非常に難しい問題です。中小、零細企業の後継者がおられない。テレワーク等がありますが、コロナに注視した中で見直しをされているとは思いますが、やはり人材育成は非常に大きな課題だと思っております。すべてのお仕事に対して関わってくることでございます。地域に外国人の方、女性の活躍、様々な方がお仕事をさせていただくことも非常に大切ですが、やはり甲賀市内、近隣の滋賀県内で育った子どもたちが高校を卒業した後、大学を卒業してから滋賀県内に就職される方が非常に少ない。高校を卒業した方は市内で就職されている方が増えております。

高校卒業される方は工場とか就職先があるようです。大学、専門学校まで行ってしまうと逆に市内、県内で就職する人がいなくなってしまう現状があるように聞いております。これは難しい問題ではあるのですが、今後、市内で育った優秀な人材、キャリアをもった人が逆に出て行ってしまう。非常に多いと思われまので、そのあたりがあまり触れられていない。難しい部分もあると思っております。せつかく、教育

に力を入れて勉強を頑張ってもらって、高校、大学も優秀なところ行くのですが、優秀なところに行けばいくほど、甲賀市にいない。うちも商売しながら二人とも就職して、一人は東京ですし、もう一人は大阪にいます。なかなか、自分の子ども達に聞いてみると就職先に面接に行く会社もない。ということを知ります。公務員志望の方が多いため優秀な方が県であったり、市であったり勤めている方が多い。

例えば、理系の学生ですとか、ある程度技術をもった勉強した子が市外に出て行って、定年退職まで戻ってこない。働き盛りがいなくなつて。定年後に戻って来られて、なかなか経済に寄与していかないと。それとさっき、申し上げたように担い手の中でも中小企業、零細企業の跡継ぎです。職人、ご商売されている方の跡継ぎがいなくてよく耳にします。どういう理由があるのか僕もはっきりしませんが、全体的に教育の中でもそうですし、日頃から甲賀市内ではこんないい仕事があるとか、こんなたくさんお給料もらっているとか、なかなか皆さん知られていない方がたくさんいると思います。新規採用が毎年どれくらいあるか、僕は存じてないですが、やはりもう少し市内に目を向けて、市内の子どもたちがなんとか滋賀県内・甲賀市内で就職できて、優秀な人材が残ってくれて、もっと希望をもって就職活動できるような地域になれば、活性化していくと思います。

その辺をみんなで考えていく方向にならないかと思えます。やっぱり甲賀市商工業と甲賀市民が一緒になって甲賀市を盛り上げていこうとすると、そういうこともひっくるめて考えていく必要があると思えます。商工業を担う人づくりというのは大変難しいと思うので、こういう書き方になっていると思えますが、どう見直したらいいか非常に難しいです。

委員長

- ・ 今言っていましたように、3のところ、現在の計画の施策・事業のところでも事業承継、人材の定着とあるのですが、より一層その重要性があるということをお考えすると、「計画の基本的な考え方」で事業承継、人材の定着、U I Jターンその点も入れたうえで、最終的に施策や事業につなげていくような方向性で考えたほうが良いと思えます。それでは、ご意見を伺います。

事務局

- ・ 現在、来年度の予算を審議いただいているところです。このコロナ禍において、都市部の子たちが田舎を見ているというのが増えているという統計もあります。今、新しい施策としてあげましたのが奨学金を借りて大学に行かれて、働いてからお返しをされる。その奨学金を市内の企業に勤めていただいた場合は、補助しましょうというのを施策化いたしました。それと併せて今のところ4分の3、100%ではないですが、補助します。

ただ、ワークライフバランスとかイクボスとかそういう取り組みを優先的にされている企業さんに就職された場合は100%まで応援します。市内の小規模な事業

者さんにも就職された方にも100%応援します。統計でいきますと年間20万ぐらいお返しされていますので、5年間で100万円の額です。市内の企業では、人材確保の部分で、なかなか研究者が甲賀に来てくれないので、神戸に研究所を置かれて来てもらっていると聞いております。甲賀市に来てもらって、お金をもらっていただいて定着していただく。また、結婚して子どもができれば人口増にもなります。そういった試みも商工労政課として手掛けていこうかと予算を計上させていただいている状況です。

委員長

- ・ すばらしい施策を展開していただいているということですし、そういったことをみんなが知るようになることも大切かなと思います。他いなかでしょうか。

委員

- ・ 先ほどからおっしゃっておられました通り、「子どもの頃から」というキーワードに私もいろいろと資料を見させていただきまして、思いを持ちましたので伝えさせていただきたいと思います。第二次総合計画の中で3つのテーマがあり、そこで商工振興計画を考えたときに、気づいたのですが、子育て、教育の部分が非常に大きなテーマだと思っております。地域の商工業に大きな影響を及ぼすのは若い世代が、いかに地域が好きで、定着してもらえるかです。そういうところがポイントになると思います。ということで、甲賀市の現状の課題で大きな問題は、子育て世代が地域に対して満足感を得られているか、ということにもなると思います。そこにはどのような考え方が必要になるかということ、子育て環境とか食育、地域の歴史とか商業についての教育であると思います。大人も知らないところがあると思うのですが、地域を知ってもらうことで、ここってこんな良いところがあるということが分かってもらえる。工業会でも素晴らしい会社があるということ子どもたちにもっと知ってもらう取り組みをしていこうという話が出ておりました。子供たち、若い世代に働き掛けをしていくことは非常に大事なことだと思います。

要は地域に関する教育に重点目標を定めるということは、地域の商工業の振興にとって非常に大事な点ではないかと思っております。そのことは、資料1の3ページに見直しにおけるキーワードというのがいくつか書いてあったのですが、それにも直結して、若い人たちがいることでそういった問題点がすべて解決すると思いましたが、先ほど、委員が言われた年齢層が高くなってから出ていかれるとあったのですが、小さいころからこの地域が好きだと思ってもらえることと、子育て世代が終わって、子ども達が外に出ましたけども、例えば結婚や就職するときに教育がすごく高いレベルにあるから、ここの教育を受けたいとか、田舎であってもすごい環境が素晴らしいと魅力になると思います。甲賀市はすごく環境が良いと思います。災害も少ないですし、いろんな面で日本の中心的なところにあるっていうことをもっともっと良さをPRして、内部からの流出を止めるだけでなく、外部からも流入

してもらえようような取り組みが大切です。この地域が非常に魅力であるということを作り出していくことが必要だと思っております。

今、言えることは、コロナウイルス感染症というものがあって、テレワークとかやむなくやり方を変えていこうということが、非常に活発になってきたと思いますが、そういったところをうまく逆に利用してこの地域だったら、先ほどは奨学金で魅力づくりを言われておりましたけども仕事をこちらでしていただくことでこうなりますよとか、もっとそういった指導をこの地域の若い世代の方にしてもらおう。根本的な問題ですけれども、仕事につなげるためには、まず教育というのは非常に重要なキーワードと感じました。以上です。

委員長

- ・ その観点をに入れていくのは大切だと思っております。また、先ほども教育ファームのところでも収入につながる視点もあったのですが、もちろん教育は公が責任を持つということが大前提としながらも、それに留まらない、取り組みが大切です。PRも含めて、ビジネスとして展開される柔軟な組織だったり、団体であったり、そういうものが作られていくということがいろんな取り組みに繋がっていく。商工業ですからビジネスになっていく観点も大切であると、お伺いさせていただきました。他はどうでしょうか。

委員

- ・ 私は商工会では青年部の活動を中心にさせていただいております。青年部では45歳以下の若手経営者がそろっている商工会内の団体で、今現在、部員数が100名以上いるのですが、これは、滋賀県内では最大の人数を誇る団体となっております。しかしながら、この5年から7年ぐらいで今の半分ぐらいになってしまうことがわかっております。小規模事業者の承継問題、起業マインドがなかなか若手の人たちにそういった気持ちにならない。世の中の情勢であると感じております。青年部の中で、コロナの影響でどれくらい影響を受けているのかいうことを気にしているいろいろと話を聞いているのですが、建設、建築業の方が多いので今のところはそんなに影響もなく、みんな仕事には困っていないと思っております。しかし、これが2～3年後には大打撃がくるのではないかとみんな危惧しております。飲食業の方はかなりダメージを受けておられまして、とくに何人か知り合いの話を聞いておりますと、もう、お客さんがないので店に出ないで建設の一日仕事に出て稼いでいるとか、弁当やりだしたけれども一日1万も売れないので商売にならないとか、そういう話を聞いております。

私が個人的に思うのは、経営者マインドの持ち方ひとつかなと思っております。急な業態変化というのは、なかなかうまく行かないですし、飲食業の中でも強いビジネスが他にもあるはずですから、そこは強い精神力をもって何とか従業員を守っていくぞと強い心をもって商売を続けていくぞという考え方を持たなければいけ

ない。なかなか行政がそういう提案は難しいかもしれませんが、経営者の心を育てるといふところ、小規模事業者を見ていると大切だと感じております。

委員長

- ・ 小規模事業者というキーワードは非常に重要だと思います。中小事業という言葉で書かれていますけれども、その辺は考えていただいたらと思ったのと、経営者自身がどのように能力を向上していくのかということについても大変重要であると思って伺いさせていただきました。他いなかでしょうか。

委員

- ・ 人材不足感です。よく新聞とかで景気、不景気とか人材がどうなっているとあります。D I です。差をみるというか。差が小さくなればちょうどいい。そういうのをやっておられるので。われわれはそういうのは使わないのですが、多ければ多いほどいいという感覚ですので、ちょうどいいというのはあまりない。そういうところを見られたらいいという気がいたします。

それとあと、職業教育という話がでまして、私は紹介、相談のほうですので、学生と生徒というよりは上の方しか会いませんが、大人の人でも地元でどういう会社があるのか知らない人がけっこうたくさんおられます。ずっと以前からハローワークに来られている方に知ってもらおう企画をしております。なにかPRビデオとか仕事探しに来られた人にお見せしますということをやっています。商工会さんとか、市役所さんとかでもいいのですが、何か集められたり作られたり補助していただければ、あまり1社、長時間、ビデオを見ていただく事はできないかもしれませんが、たくさんの方の事業所さんが集まれば、ハローワークの中でそういうのを公開したりとか多くの方に見てもらったりすることはできます。なかなか集まらなくて苦労しています。もし、そういうのを提供していただければ所内でも公開できます。

委員長

- ・ D I のような形については今後、相談ということになると思いますが。評価指標に関わって、ギャップということになるのかと思います。ビデオ等とか活用するというのも大切かなと思います。他にいらっしゃいますか。

委員

- ・ 皆様のお話を聞かせていただいて、目先の産業振興をどうしようという話があるのですが、将来、ちょっと先の未来。今の若い方たちが担っていただく事をどうすればいいのか。大きな課題と思ってお伺いしていました。さっき、教育ファームの話を見せていただいたのですが、教育ファームの大きな効用というのは、郷土愛を育むというのがあります。農業公園で働いていた時に、毎年2か月くらいフランス人の方がインターンシップで来ていたのですが、彼ら、けっこううまい物を作ってい

ますので食べさせるのですが、彼ら必ず言うのは、これもうまいけど、自分の暮らしていた街のあの人が作るチーズがうまいとか、酒はワインがうまいとか、必ずそう言います。なんて失礼な奴らだなんて思っていたのですが、なぜ、そんなことを言うのかと考えたら教育ファームという制度がしっかりとあるからなのです。子どもたちから農家の人たちと交流して、いろいろな勉強をして、食べ物をとというのは郷土愛を育むには非常にいい素材になるかなと思っています。

農業という視点だけでなく、食べ物でいくと食器を使います。そうすると信楽焼です。焼き物の教育。農業だと薬とつながる。いろいろな物と繋げた教育みたいな仕組みができると郷土愛ができて、出ていってもいずれ戻ってくる子が増えるのではないかと思っています。

委員長

- ・ さらに教育ファームについての取り組みについて具体的な中身をいただきました。また、参考にさせていただければと思います。他にございませんでしょうか。

では、私から少しお話しします。今の計画では、施策とかはすでに展開されているのですが、前は6次産業化という言葉が出ていたのですが、農商工連携の重要性について「商業・サービス業」に触れていただいたほうがいいというのが1点。

あと、前回の甲賀ビジネスサポートセンターのことも出たのですが、商工会連携というのが9ページ、10ページで触れておいた方がいいと思います。ここでも触れていただいたうえで施策とか事業に繋げていくのがいいと思った次第でございます。ということで、様々に意見をいただきましてありがとうございます。それではその他について事務局よりお願いします。

4. その他

事務局

- ・ 第3回審議会 令和3年3月29日（月）15：30～（予定）

委員長

- ・ それでは、様々なご意見いただきありがとうございます。具体的な振興計画を作るうえでの意見をたくさんいただいたと思います。皆様方の積極的な意見をいただきました。

9. 閉会

事務局

- ・ 本当に様々ご意見賜りましてありがとうございます。次回、具体的な施策についてもご意見を伺いたいと思います。本日の審議会終わらせていただきます。ありがとうございました。